

平成30年度東京電機大学大学院・東京電機大学入学式式辞

本日、ここに大学学部 2,189 名、大学院 423 名の新入生を東京電機大学にお迎えし、東京電機大学を代表して皆様にご心からお祝い申し上げます。ご臨席いただきましたご父母、ご親族の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

東京電機大学は創立以来 110 有余年の伝統を持ち、日々 1 万人を超える学部学生・大学院生が学ぶ理工系総合大学であります。学部としてシステムデザイン工学部・未来科学部・工学部・工学部第二部・理工学部・情報環境学部の 6 学部を有し、大学院には未来科学研究科・工学研究科・理工学研究科・情報環境学研究科の 4 修士課程、博士後期課程である先端科学技術研究科と併せて 5 研究科を擁する大陣容に発展してきております。

本学の卒業生は 21 万人を数え、産業界をはじめとして広く社会で活躍され、高い評価を受けておられます。優れた卒業生のご活躍のお蔭で、技術で社会に貢献する人材の育成という本学の使命が認知され、後に続く卒業生が社会から歓迎されることに繋がっています。その結果、現在では東京電機大学は就職に強い大学であるとの定評が得られています。

こうした評価を堅持するため、本学の全教職員は一体となって科学・技術に関する先端的な教育・研究の実践に取り組んでおります。日本の十大発明家の一人として知られる本学の初代学長で文化勲章受章者の丹羽保次郎先生は「よき技術者は、人としても立派でなければならない」と述べられ、この考えを一言に集約して「技術は人なり」という言葉を残されました。この「技術は人なり」は本学の教育・研究の理念であり、建学の精神としての「実学尊重」とともに東京電機大学の教育・研究体制の根幹をなすものであります。

東京電機大学はこのような確かな理念・精神に基づき、現在にいたるまで堅固で誇るべき伝統を織りなしてまいりました。先輩の皆様や教職員が伝統を作ってきた環境の中に、今日ここにおられる新しい皆様を迎え入れることができたことを私は心から誇りに思っております。本学が伝統を受け継ぎながらも新しい現実には大胆に対応し続け、本日入学された皆様のような人材が未来の社会

で活躍できるよう、今後とも教職員一同弛まぬ努力を続けていく所存であります。

未来に向けて現在の時代の流れを読み、変化を恐れず社会と調和し画期的な創造を実現していくことは、ここにおられる皆様のような将来の技術者・科学者にとって大切な使命です。ではそう遠くない未来に向けて、皆様が本学で学業・研究を始められ、これを終えられて社会貢献される頃までに世界はどのように変化していこうとしているのでしょうか。

皆様は「宇宙船地球号 (Spaceship Earth)」という言葉をご存知でしょうか。1963年に米国の建築家・思想家であるバックミンスター・フラワー氏が提唱した概念です。これによれば地球とは宇宙という海を航海する船であり、船のように閉じられた運命共同体だということです。かけがえのない地球という宇宙船の中で、人類皆が平和に共生するべきとの願いが込められた言葉です。

ところで国際連合は最近、この宇宙船地球号の中での課題を皆で解決しようと193か国の賛同を得て世界への新たな働きかけを始めました。国際連合が2030年までに解決しようという17の「持続可能な開発目標、(SDGs Sustainable Development Goals)」がその課題です。世界から貧しさや餓えを無くし、皆を健康にし、皆を教育し、平等な社会を作ろうと17課題の解決を国際連合は世界に求めているのです。

大事なのはこれらの課題の解決の中で、科学・技術および創造、(Science/Technology & Innovation)の進展がきわめて重要であると国際連合が結論づけていることです。とりわけインターネットの発達によってすべてが繋がった状況が実現し、IoT (Internet of Things)が社会の基盤となっていくことは課題解決に携わる多くの人々によって非常に重視されています。何しろ今述べたような「宇宙船地球号」という地球のイメージそのものが、IoTの「繋げられること」によって大きく変わってしまうのですから。これは地球に生きる私たち一人一人にかかわる問題です。特に技術者・科学者を目指してここにおられる皆様にとって重要な時代の変化です。

IoTにおいては地球上のすべての情報源、具体的には150億個の携帯電話・スマートフォン、20億台のパソコン、無限ともいべきメモリ、さらには76億人の人間の知性が繋がれ共有されます。地球の表面に存在する情報にかかわるすべてのものが繋がれていくのです。地球上のありとあらゆるものの情報、76億もの知性が繋がった地球はもはや「超知性地球」と呼ぶべきものと言えましょう。地球はいまや「宇宙船地球号：Spaceship Earth」という物理的なイメージで捉えられるだけのものではありません。地球のヴィジョンはサイバー空間で、すべての知性が繋がる「超知性地球：Super Intelligence Globe」と呼ばれるまでに変容しているのです。そして皆様一人一人が、この中に組み込まれているのです。

さて先ほどお話ししたように国際連合は、人々に科学・技術・創造によって課題を解決することを求めています。世界はこれからの「超知性地球」の中で生きる新しい技術者・科学者がそれぞれの分野の知見を活かし、この新しい環境を利用してそこで出てくるさまざまな問題に対し積極的に新しい解決を与えてくれることを期待しているのです。

理工系総合大学である本学は世界規模でのこうした要請に応え、ここにおられる皆様が各分野の科学・技術を身に付け、社会貢献できる人材へと育てていく重大な務めを担っています。私たち教職員は、一丸となってこの務めを果たしてまいりたいと考えております。

皆様が社会貢献の実を上げるためには、国際連合が掲げた17課題のような大きな社会的課題を受け止めながらも科学・技術に携わる者として、より具体的に自分自身にとって解決すべき個別の課題を発見する能力が不可欠です。そしてそのうえで、発見した課題を自ら適切に解決する能力が必要となることはいうまでもありません。さらに今述べたような「超知性地球」に繋がる自分が、そこで出てくる問題を十分に認識し技術者・科学者として、また能動的で開かれた「人」として世界の他の知性と結びつき共生していくために教養を磨き、異なる文化を深く理解する力が必須のものとなってくるでしょう。つまり課題発見能力・課題解決能力・異文化理解能力、この3つの能力をこれから本学においてぜひ研鑽して頂きたいのです。

皆様が私たちの東京電機大学においてこの3つの能力を真摯に学び取り、自信と夢を持って挑戦を続けてくださるならば、必ずや高度な技術の専門家または優れた研究者に成長されることと私は確信しております。

結びにあたり、今まで温かくご子女の成長を見守ってこられたご家族・ご親族の皆様に変更してお祝いを申し上げますとともに、今後とも温かく見守って頂きますようお願い申し上げます。

本日入学された皆様が貪欲に自分を磨き、課題を見つけ一心不乱に、解決へと努力される中で、必要な能力を本学において身に付けられることを私は学長として期待し、また全力を挙げて支援する覚悟であります。

新入生の皆様の入学後の成長を大いに期待しつつ、本日の学長式辞といたします。

平成30年4月2日

東京電機大学 学長

安田 浩